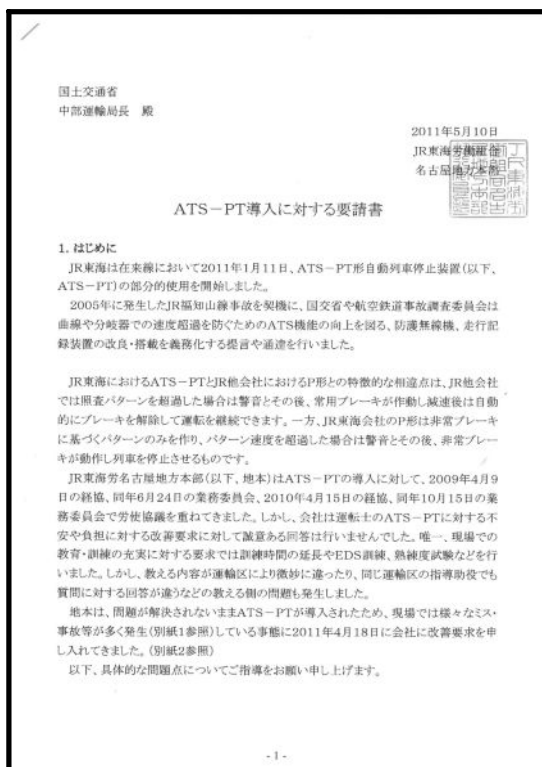


ATS-PTの問題点 中部運輸局に現状を訴え、 JR東海に指導を要請！

2011年1月11日、JR東海のATS-PT運用が部分的に開始されました。システムと動作の内容が他会社と違うこと、更には複雑な為、運転士への負担が多くなっていることから、運輸区では混乱が発生し不安のまま運転をしています。不慣れなPTでミスも連続しています。

私たちは、これまで会社にATS-PT導入に当たって「非常ブレーキから常用ブレーキへ等」の要求を提出してきました。会社回答は「非常ブレーキで止まるが一番安全」「運転士が決められた事をやればミス・事故は発生しない」等と運転士の現状とは、全く相反する姿勢を明らかにしています。ATS-PTが導入されたことで、乗務員の仕事が従来に増してやりにくくなったことは言うまでもありません。

私たち東海労は、今回ATS-PTの問題点と会社への指導を含め、中部運輸局に要請書を提出しました。これからも問題点改善に向けて取り組みを強化します。



私たちが運輸局に要請した主な内容

1. 非常ブレーキに対する不安について
・止まれば責任追及される現実がある。
2. 非常ブレーキ動作の設定速度について
・パターン設定速度はプラス1km/hで警音、プラス5km/hで非常ブレーキにする。
3. 入換信号機に対する設定について
・地上子は停止位置標識に合わせる。
4. 出区点検時間について
・確認事項増により作業量が増大となっている。
5. ATS-STとPTが混在した現実について
・取り扱いが違う車両の混乱と危険性がある。
6. 運転士への精神的負担について
7. 運転士の負担軽減装置について
8. 私たちの要望